

2015年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	小林 勉		
NAME	Kobayashi Tsutomu		

1. 研究課題

（和文） スポーツの「参加」概念の再検討に関する研究

（英文） A study on participation levels in organized sport

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出を目指す」というスポーツ基本法の理念にもとづき、自治体レベルでも地域のスポーツ振興計画を策定することが求められてきている。しかしながら、スポーツを振興する上で各地域に様々な問題や差異がある中、そうした相違を考慮することなく、国全体として同じ数値の政策課題を設定することは本当に有効なのだろうか。本研究では身体性を伴う長野県の伝統的祭事やJリーグのプラットフォームを活用した秋田県のプロジェクトを通じて、「参加のカタチ」の複層性を探った。

本研究を通じて明らかになった点は、以下の通りである。

- ①各スポーツ種目にはそれぞれが有する参加の特性があり、それらを考慮しないかぎり人々はスポーツに参加しない、もしくは参加したとしても徐々にスポーツの空間から遠のく。
- ②スポーツ参加の実践には個人レベルにおいて多々の困難が伴い、スポーツ振興の政策が描く図式とは異なる「一筋縄ではいかない」現実がある。そのため、それらの阻害要因を除去するのに、草の根レベルでのネットワークングやアクター間の連絡調整が重要となる。

なお、これらの研究成果の一部は、全国スポーツ推進委員連合機関誌「みんなのスポーツ」の特集において「スポーツ推進委員の連絡調整と地域活性化」という論考として公刊され、全国のスポーツ推進委員の活動にフィードバックされた。

（英文）

Although there is growing interest from governments in participation levels in sport, there is few study to examine that the extent to which governments actively promote sport for all on grassroots level. This study addresses the following key themes.

- Participation levels in organized sport
- The impact and the nature of government sport policy

In conclusion, the actual implementation of sport participation must face difficult problems such as local sporting culture, local structures for sport and government intervention.